

桑 都(そうと)

「そうっと のぞいて みてごらん♪」

めだかの学校の皆さんは、この暑さでもへっちゃら!?

5年生の教室に授業の様子を見に行くと、子供たちが声を掛けてくれました。そこには、小さなメダカの水槽があります。

「メダカが卵を産んだんだよ。」



目を輝かせながら教えてくれます。私は、小さな命を驚かせないように、水槽をのぞき込みました。シャーレに分けられた水草には、小さく透明な卵がいくつも付いています。「ここにいるんだよ。」と、指をさすその表情には、命の誕生を心待ちにする優しさと、発見する喜びがあふれていました。

続いて、3年生の教室では、カイコたちが桑の葉をむしゃむしゃ、むしゃむしゃ。葉をかむ音が聞こえてきそうなほど、夢中で葉を食べています。毎朝、先生や子供たちは新しい桑の葉を届けます。「昨日より大きくなった!」「もうすぐ繭になるね!!」毎日の小さな変化が、子供たちの歓声になります。



八王子は、かつて養蚕と織物で栄え、「桑都(そうと)」と呼ばれたまちです。カイコを育てる学習は、理科では生命の成長を継続して観察する学びにつながり、総合的な学習の時間では、「なぜ八王子は桑都と呼ばれるようになったのだろう」「一本の糸が、このまちをどのように支えてきたのだろう」と、地域の歴史や文化への探究へと広がっていきます。命を育てることが、ふるさとを知ることにつながる。これもまた、散田小学校ならではの学びです。



休み時間になると、生き物が大好きな子供たちは学校の池?ビオトープ?へ向かいます。石を そうっと 持ち上げる。水の中を そうっと のぞき込む。「ヤゴがいた!」「あそこにメダカ!」夢中になって生き物を探す子供たち。その姿を見ていると、思わず笑みがこぼれます。桑都 の子らは、予想以上に 相当 の生き物博士たちです!!教育心理学では、このような「知りたい」「やってみたい」という内発的な動機が、子供たちの成長に大きな役割を果たすことが明らかになっています。本校が大切にしている「未知を楽しむ力」は、まさにこの好奇心から育まれます。



今年10月、八王子駅南口に、新たな学びと交流の拠点「桑都の杜」が誕生します。歴史・郷土ミュージアム、ライブラリ、交流スペース、公園などが一体となり、子供から大人までが集い、学び、語り合う、市民の新しい居場所です。そこでは、八王子が歩んできた歴史を知るだけではありません。人と出会い、本と出会い、文化と出会い、新しい問いと出会うことができます。そうと 決まったら、善は急げ!!オープンしたらすぐに行ってみよう!!

メダカの卵は、とても小さな命です。カイコが紡ぐ糸も、一本では細く頼りなく見えます。けれど、その小さな命や一本の糸が、人の暮らしを支え、八王子というまちの歴史をつくってきました。教育もまた、同じなのかもしれません。子供たちの「どうしてだろう」という小さな問い。「見つけたよ」という小さな喜び。その一つ一つが積み重なり、やがて未来を生きる力になっていきます。だから私は、これからも子供たちの姿を、そうっと、見守っていこうと思います。

なぜなら、子供たちが織り成す色とりどりの未来は、そう遠くはないから。(この辺で、クワ イエットしますね)